

兄はもう亡い (三)

佐藤龍玄

して永久の眠の床を此のサンバウロ
市墓地に求めた。小高き丘の頂に
展望の佳また多くあらざるの地に

明くれば十二日石原君に依頼して十
字の墓標を造り佐藤源治の墓と記し
袋を手に入足繁き町中を電車をよけ
自動車をさけ、やがて中央活動寫眞
館前の廣場より電車に乗り、三十分
餘にしてアラツサ墓地に下車した。

『十日午前四時慈善病院にて死亡し
た佐藤源治の墓を教へて下さい』

『第三號區第一百三十番A』

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

美しく飾られた數多の墓の間を右に
左に、降る雨にべたつ赤土道を、
やがて下り坂の方に向ふ、朝方止ん
でゐた雨がまた降り出した。

『第三號區第一百三十番A』はそれで
そこに働く人にさくと並ぶ新しい十
個余の土鶴頭を數へ來りて『之れだ』
と教へてくれた、或るものは既に花
輪のうづ高く積まれて居た、更に幾
個となく穴は並び掘られて居る、教
へられたのに携へた墓標を立て花を
載せ、雨の爲め風の爲めつけても消
ゆる蠟燭を一包ごと立て、線香をた
く、九年の長き西に東に、共にく
手を携へた我がいとしの兄は、斯く

過ぎし日を今更らしく思ひ出づ
はかなりける兄が最期の。
(大正十一年七月一日)

◎在伯青年の爲めに
遠く母國は、距つるとしても
住めば都よ、第二の日本
此所に築くは、我等のつとめを
いざ闇まなん

原籍山口縣都濃郡須々万村
江村小次郎
大正十一年九月 在サンバウロ

帝國總領事館

伯刺西爾時報取次所
Largo 7 de Setembro, 15
Tel. Central, 2008, Santos

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

◆新作賀緑江節

練習艦隊出雲航海長 慶雄

○日伯親善とイグアベ殖民地は
ブラジルと、日本とつき合ひはじ
めしは、つい近頃の事なれど
今じや切つても切れぬ仲
仲を取り持つイグアベよ

○在伯同胞の發展を祝す
ブラジルに、我が日本の民草を
移植して僅かに、十數年
されど土地肥え、氣候よく
緑いや増す美しい

○在伯同胞の發展を祝す
在伯同胞諸君に贈る
新日本國を離れし此所に
移して僅かに、十數年
されど土地肥え、氣候よく
緑いや増す美しい

○在伯同胞の發展を祝す
在伯同胞婦人に贈る
新日本國を離れて、一萬數千里
諸子の任務や、重く尊し健在祈る
幸多かれよ

原籍山口縣都濃郡須々万村
江村小次郎
大正十一年九月 在サンバウロ

帝國總領事館

伯刺西爾時報取次所
Largo 7 de Setembro, 15
Tel. Central, 2008, Santos

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

民刑商訴訟手續其他一切の法律事
項懇切取扱
辯護士ジルベルトデアンドラー
事務所 R. o. Bento, 12 B
Tandar Sala 10

帝國練習艦隊がサントスへ寄港した
ラレヂストロ植民地へも司令官一行
が視察に見へるとは二ヶ月以前から
植民の頭腦に染込んでゐたことゝて
愈々それが實際に現はれた廿一日を
中にしての三日間はまるで沸湯返し
程の賑ひである
▲軍樂隊附の司令官一行が二十日午
後五時レヂストロ波止場に見ゆるや
数百の男女は河邊に堵列して手に日
伯國旗を打振る可愛らしい小学生徒
と共に歓乎之を迎ゆれば船中の軍樂隊
は海軍マーチを奏して之に和し涙
の出る程嬉しい歓迎は萬歳聲裡に始
終した
▲此夜司令官及三艦長一機關長は海
興技師デマリー氏宅に、其の他は今
回改築の收容所ホタルに安らかな夢
樂しさうに視察され途中司令官は植
民の家に立寄り其の實状を見聞し又
第一小學校庭前に紀念樹の植付など
を爲して今日歓迎會のあらうと云ふ
本部まで歸へられた
▲斯くして午後一時に至るや海興と
共拓會合同主催の百年祭祝會の幕
が開き中島副委員長の司式の下に今
日晴々と輝ける伯國々旗の下で伯國
國歌が合唱され、それから藤田所長
代理の祝詞(葡語)、青年會代表目沖
剛氏の祝詞(葡語)、次いでイグアベ郡
會議長ジョアキン・サンターナ氏の
艦隊歓迎の意を含める謝辭あつて後
一同伯國萬歳を三唱した
▲歓迎會 右の如く獨立百年祭式が
了るご度は谷口司令官一行の歓迎
會が行はれたが、初め北島ドクトル
の海興を代表しての歓迎の辭がある
と續いて仁戸田氏(豫備大尉)の共拓
會を代表しての歓迎の辭があつて歓
迎歌合唱の後谷口司令官の答辭があ
つたが始めから終りまで實に喜悅に
充ち最後の帝國練習艦隊萬歳を三唱
した時の感激は海外に在る者にして

始めて味ひ得べき快味であつたら、
▲此日歓迎場及其の附近に集つた同
胞並に伯國人は無慮千五百と註せられ、
青年會員と艦隊乗組員との角争い
及運動は大喝采を博し、夜に入つて
の提灯行列は異彩を放つて空前の賑
ひを呈した又明ければ二十二日朝の
五時植民同心を込めての松明に司
令官一行は見送られ一萬一千浬の外
に斯も温かき日本人植民地にあるに及
感を得て又ジユキア停車場で同線沿
線の同胞の歓迎を受け無事サンクト
への歸船は此の日の暮れがかつた大
時頃であつた。

空前の賑ひを呈した イグアペ植民地の艦隊歓迎

リップ・リチャードソン氏夫妻、フ
ィリップ・ビルディット氏夫妻、ド
ウグラス・ニュウトン氏夫妻、クイ
ブ・モリソン・ベル少佐、ジョン・
ノートン・グリツフィス氏及び令嬢
の諸氏は来る九日リオ入港のアルマ
ンゾラ號で伯國觀光に來る

● 山科團長催しの
午餐會

來聖以來二週間或時は團體で或時は
組々で又或時は個人で州内諸所を熱
心に視察された南米視察實業團は去
る三十日聖州視察に段落を附け南行
スすることに決したので同日正午から
ハホテル・ラルミヌスに於て一大午餐
會を催ふし滞留中直接間接世話にな
つた人々藤田總領事、青柳海興重役
を始め二十數名を一招待し視察團一
にて肩の凝らざる午餐會のことゝにて
一同打籠き飲み且つ食してザーテー
御成約あらせられた(總領事館着電)
行と歎談の機會を作れるが邦人同事
にて肩の凝らざる午餐會のことゝにて
一同打籠き飲み且つ食してザーテー
コレスの幕に入り君が代奏樂の後萬
歳を三唱して散會したのは正に午後
三時であつた

すに、思ふ同志がおどり膳で仲よ
暮らさう、さあかうお出で、戀
とり合ひ、暗に紛れて雲がくれて
まつた。取り残された伊集の妻は
翌朝初めて夫の床の藻抜の殻などの
駒合を知り、口惜涙に咽んでゐる
へ、神ならぬ身の留守の妻へ土産
幼兒を初め、三人の子女を抱えて
等と、のへて旅行先から歸った新
當を尋ねる中、初めて隣家の妻と
妻の不貞に之はとばかり、地團駒
などが追付かず、草を分け石を起
らすそばから、頑はない兒にば、
なく働いてゐるが、茲に哀をとゞ
たは伊集の妻子、乳飲兒を抱えた
と子供、行末思つてこぼす涙に袖
行つたの、と云ふ答に子供はベル
した

●聖市夜學校の時間割
コンデ大正小學校内の夜學校は五
月中の小倉小次郎氏は諸病併發の爲
今週は容態更に悪化し兩三日來章
の明瞭を缺くに至つたので高岡醫
及海軍士官代るゝ病床に侍し病
醫及專仕看護人を輔け何かと世話
つゝあるも病勢次第に陥惡の爲め
同甚だ憂慮しあり
●小倉氏其後の容態
インヂチユート・パウリスタ在所
の伯國獨立百年を記念し併せて
伯國の眞相を故國に紹介せんが爲
九月七日の獨立大祭日に出版した
「新進之伯刺西爾」は到る處好評
博した中にも今回來伯の實業團
習艦隊との賞讃を得二千部出版の
全部買上の弊を受けたるが尙ほ
しばらくの殘本あれば本紙購讀者
是非欲しいと云ふ方には七冊
レース(送料共)の實費で差上げ得
のこと

Notícias do Brasil

6 de Outubro de 1922 No. 261

號一十六百二第二 日曜金 日六月十年十一正大

大石内藏之助

牛井桃水

お目に掛つたのう、や、面目ない

「イヤもうお蔭をもつて、耳の垢を拂ひまして御座ります」

喧にまるる内藏之助が狂態には、

死かた、拙者今でも相手があれば、情死を致して見たいが、殘念ながら

相手がないのちや、マ、何事はさて

いた。其方が却つて宜しいでせうが」と云ふ位なら、必ず

塞つて居る時に「二階の安い場所だ

置き、惣右衛門殿、御酒あがれ

申す、可愛い者を残して居れば、永

うか」

申す、可哀しい者を残して居れば、永

うか」